

岐阜県JAバンクが、農業所得増大と地域活性化に資する踏み込んだ取組を行っていることを広く知っていただくため、「ぎふの農業人」と題し、担い手農業者等の働く姿、農畜産物に対する想い、JAとの繋がり等を、中日新聞・岐阜新聞で紹介しました。

ぎふの農業人
第31回
2024年10月4日

飛驒のトマト
しっかりと育った果肉とうまみ
冷涼な気候が育む

狭間 廣一さん(高山市)
岐阜の豊かな土地と涼やかな気候が育む出汁系産物と、企業農業を組み合わせることで31回目の今週は「飛驒トマト」です。「飛驒トマト」は7～11月の夏秋期に出回る大玉のトマト。涼しげな甘みと酸味のバランスが良く「甘み」「酸み」として知られています。また、果実が特徴的な200m級の山に囲まれた飛驒地域で、この時期ならではの涼しい気候が育む、しっかりと育った果肉とうまみを生かしたトマトです。

農の現場から/JAひだ 丹念川支店長 高佐治さん
JAひだ管内では、中山間地域の冷涼な気候を活かし、世界ブランドの産物や産物、いわゆる「山菜」や「山菜」などの産物が盛んに育てられています。農業者や農産物、販売、共同組合を通じて産物の方や地域に貢献することを目指して取り組んでいます。飛驒トマトの産地と、人財育成の取り組みとして地域の産物農業者の方が研修を受け入れて下さる事で、農業者が活躍できる環境を整えています。私自身も、JAが活躍できる環境を整えているのがとても嬉しいです。私自身も、JAが活躍できる環境を整えているのがとても嬉しいです。私自身も、JAが活躍できる環境を整えているのがとても嬉しいです。

耕そう、大地と地域の未来。 ぎふの農業人の過去の記事はこちら ▶

飛驒の恵み、甘さと酸味の絶妙ハーモニー。
昼夜の寒暖差が生み出す濃厚な味わい。
食べるたびに広がる、感動の一口。
飛驒トマトで、毎日の食卓に特別なひとときを。

岐阜県JAバンク JAぎふ / JAにしみの / JAいび川 / JAめぐみの / JAとうと / JAひがしみの / JAひだ / JA岐阜信濃

「ぎふの農業人第31回」

高山市でトマトを栽培する担い手農業者を取り上げ、より良いトマトを栽培するため行政やJAの支援を受けて、様々な栽培方法に挑戦する姿を紹介しました。

(令和6年10月4日)



○清流の国ぎふ 食と農の商談会 2024の開催

令和6年7月9日に、岐阜県、(株)十六銀行および岐阜県中央会との共催により、岐阜県内の6次産業化事業者、農業者、食品業者の販路拡大支援を目的とした商談会「清流の国ぎふ 食と農の商談会 2024」を開催しました。



本商談会は、バイヤーのニーズを調査のうえセラーが提供する商材との事前マッチングを行っており、セラー・バイヤー間において、活発な商談が行われました。

本商談会には、セラー37団体、バイヤー11団体が参加し、合計73件の商談を実施したところ、「成約」および「成約見込み」は15件となりました。

○つながり強化戦略「JAつなグッド！」

JAバンク利用者との取引深化を図ることを目的として、給与振込口座・JAカードをご契約いただいた方にはQuoカードPayを進呈するとともに、年金振込口座をJAへ新規指定・指定替えいただいた方の中から、抽選で「JA特産品」が当たる「JAつなグッド！」を実施しています。

